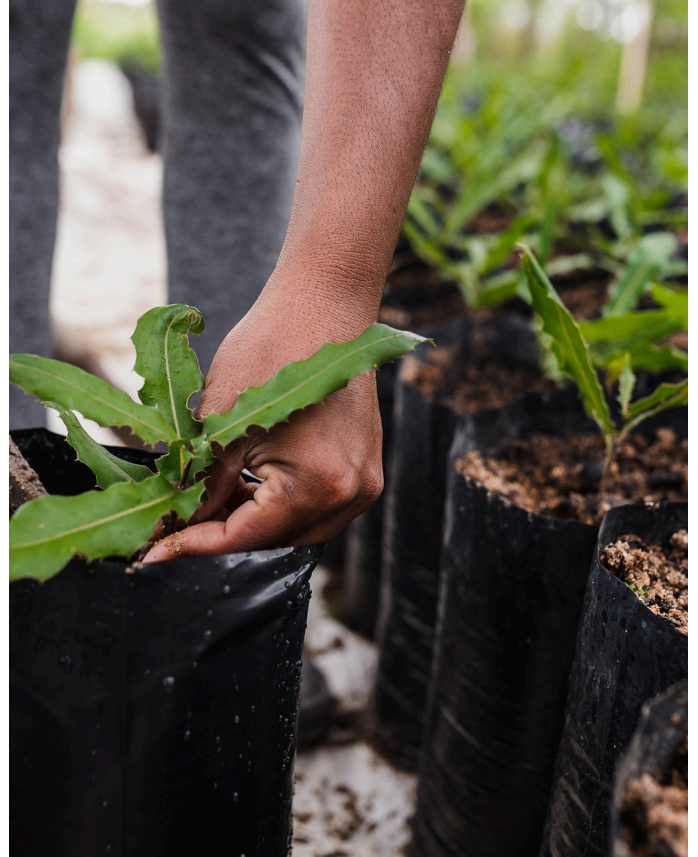


— NO215 12月号

FOREST NEWS

未来を育てる木を植える
未来を守る木を植える



2025年度 指標

- ①パンタナール地域における潜在自然植生の混植密植形式の植樹の実施
- ②国内において累計500本の植樹活動
- ③植樹を通じた環境問題解決のロールモデルをつくる
- ④セミナーや植樹祭を通じて「家族で木を植える」文化の啓蒙
- ⑤混植密植の植樹を推進する他団体との連携

NPO法人 地球の緑を守る会

発行人 藤生輝彦

〒182-0021東京都調布市調布ヶ丘2-15-1ビリアベルデ407号

Tel:042-449-0183

ホームページ <http://midori.mond.jp/>



理事長メッセージ

命の設計図を抱く宝石。一粒のどんぐりから始まる森づくり

どんぐりの季節となりました。クヌギ、コナラ、ブナ、カシワ、アラカシ、シラカシ、スダジイなど、ブナ科の樹木の堅果（種子）の総称が「どんぐり」です。森づくりを志す人が見れば、その一粒一粒がまさに「宝石」です。わずか一粒のどんぐりが、15～20年で樹高15m以上にまで達し、それらが集まって豊かな森をつくるからです。

森の成長を待ちわびるかのように、そこには多種多様な昆虫、鳥類、小動物が住み着き、緑のオアシスが出現します。あの褐色の一粒の中には「命の設計図」、すなわちDNAが組み込まれており、その設計図通りに育っていきます。当たり前と言えは当たり前ですが、改めて考えると不思議としか言いようがありません。

例えばシラカシの無数の葉は、一見すると無造作に茂っているようにも見えますが、実はその形、葉の縁のギザギザ（鋸歯）、緑の濃淡、香りなどは決して曖昧なものではありません。他種と区別できるほどの絶対的な個性を持って、枝いっぱい広がっているのです。

シラカシ、アラカシ、シイノキ類のどんぐりならこの時期、明治神宮の森で拾うことができます。15分もあれば1,500～2,000個ほど集めることも可能です。これを播種し、来春に芽が出始めた頃にビニールポットへ移植すれば、2年で樹高約50cm、根の十分に張ったポット苗が完成します。ここまで育てば、どこに植えても100%に近い活着率で成長していきます。

なお、寺社の境内で拾う際は、社務所に一言断ってから始めるのがよいでしょう。手塩にかけて育てた苗は、仲間の皆さんと混植・密植し、大小さまざまな規模の森を自由自在に育ててみてください。その森に自分たちで記念の名前を付けるのも楽しいものです。市販の苗木（2年もの）は一本当たり450～500円ほどしますから、自分たちで1,000本育てれば50万円相当の価値になり、非常に有意義な試みと言えます。シラカシ、アラカシ、シイ類なら年明けの2月頃まで拾うことができます。同じ時期にモチノキやクロガネモチなども真っ赤な実を付けますので、併せて採取してみるのもお勧めです。ちなみに、何のどんぐりか分からないときは、市販の「どんぐり図鑑」を携帯しておくとも便利です。

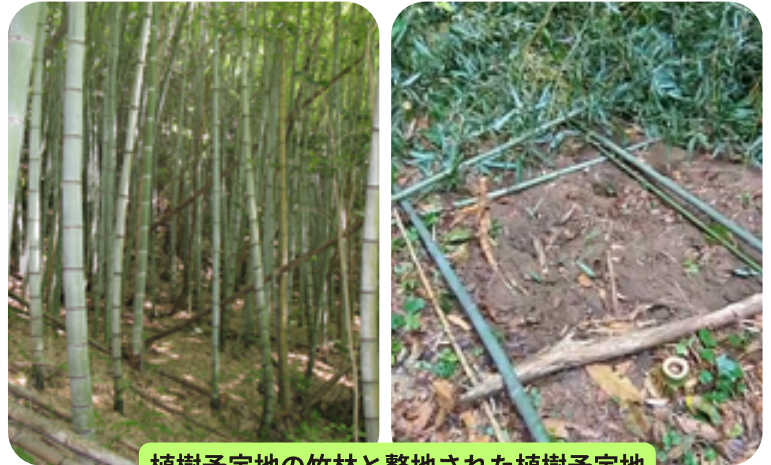
七尾市にて初の自主企画植樹プロジェクト下準備へ

11月25日、当法人にとって初となる企画植樹に向け、石川県七尾市のH氏所有地にて現地調査と下準備を行いました。

今回の大きな課題は、生命力あふれる竹林の整備です。実際に掘り起こしてみると、根が張り巡らされており、竹の勢いの強さを改めて実感しました。当日は、直径20cm、高さ5～7mに及ぶ竹を10数本伐採し、植樹のための整地作業を敢行。まずは一步を踏み出すため、最低でも1m×1mの区画を確保し、竹の根が到達しない深さ70cmまで耕し竹の根の除去を行いました。

現地では、植樹範囲や必要な苗木の本数を見極め、参加人数の目安や、植樹後に森を見守ってくれる担当者の選定など、具体的な運営体制についても議論を深めています。

この竹林を切り拓いた場所が、数十年後にどのような豊かな森へと姿を変えるのか。期待を胸に、3月には最終準備のための再訪を予定しています。当法人の新たな挑戦となるこの森づくり。一粒のどんぐりから始まる「命の設計図」を、この七尾の地で大切に育んでまいります。



植樹予定地の竹林と整地された植樹予定地

冬の公園を彩る「花いっぱい運動」を実施

12月14日、調布支部では恒例となっている年2回の公園花壇づくりを実施しました。冬の澄んだ空気の中、当日は8名のボランティアが集まり、地域の方々の目を楽しませる彩り豊かな花壇を整備しました。

調布市では「花いっぱい運動事業」として、市民や地域団体が主体となって公共スペースの花壇を管理するボランティア活動を推進しています。この事業は、市から直接業務を委託されるのではなく、市民が自主的に維持管理を担う点が特徴で、現在市内では70以上の団体がこの運動に参加しています。

当支部もこの制度を活用し、公園の維持管理を通じて地域貢献に励んでいます。作業当日は、参加者同士で声を掛け合いながら丁寧に土を耕し、一株ずつ心を込めて苗を植え付けていきました。自分たちの手で整えた花壇が、公園を訪れる人々の憩いの場となることは、活動の大きな励みです。

「自分たちの街を自分たちで美しくする」という誇りを胸に、これからも花と緑を通じた地域交流の輪を広げていきたいと考え、継続していきたいと思います。



～国内・海外活動レポート～

竹林整備ボランティア参加に思う

12月20日、千葉県市原市にて竹林整備ボランティアに参加しました。七尾市の植樹地における竹林対策を学ぶべく、専門団体のもとで研修を積むことが目的です。現場では竹林整備の奥深さを実感しました。伐採した竹を粉砕して畜産の飼料に混ぜれば肉質が柔らかくなり、農業では腐葉土の代用となります。さらに、竹を炭化させれば二酸化炭素の固定化に繋がり、手続きを経て1トン当たり1万円で買い取ってもらえる仕組みもあるそうです。こうした循環型の取り組みは、今後の活動に非常に参考になります。

また、竹林の中にアオキなどの常緑樹が

芽吹いている姿も印象的でした。一見、生態系を壊す「害」に見える竹の侵食も、長い目で見れば土を耕し、日差しを遮ることで、次の主役となる「潜在自然植生」を育む準備をしているようにも見えます。その姿は、先駆者が荒野を開拓し、その中から次世代が芽吹いていく人間社会の営みとも重なり、深い感銘を受けました。



竹林伐採の様子と竹林内の常緑樹の若木

M&LEDA方式による植樹の成果 — パンタナールの地で逞しく育つ樹木たち

パンタナールの現地スタッフより、植樹地の最新写真が届きました。6月に植樹した苗木は、今や人間の背丈ほどにまで逞しく成長。また、10月に植樹した木々も無事に活着し、しっかりと根を張りました。遠く離れた地で、私たちが託した「命の設計図」が着実に形となっていることを実感します。厳しい自然の中でも力強く育つ樹木たちの、これからのさらなる成長が非常に楽しみです。



2025年6月の植樹地



2025年10月の植樹地